

【山崎名誉主宰の俳句】

八月

山崎 聰

亀あるき時の日のあと太宰の忌
梅雨の闇俺がおのれを見ておりぬ
七夕のややや湿っぽい朝の景
水母浮く何も見えなくなったあとに
山吹がひっそり咲いて夢のまた夢
八月やいのちありせば諾いて
夏の雲きのうより濃く東京へ
神ほとけおおかたは野に八月は
ふつつつと時間うごめく熱帯夜
炎昼や奈落が見えるはずもなく